

サステナビリティ

持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に向けて、2023年2月にYUSHINグループのサステナビリティ基本方針を決定するとともに、マテリアリティ(重要課題)を特定しました。

◆ サステナビリティ基本方針




私たちは省力化ソリューションの提供を中心とした事業活動を通じてサステナブルな社会・環境の構築に寄与するとともに、持続的に事業を発展させ、企業価値を向上することを目指します。




◆ マテリアリティ特定のプロセス

持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に向けて、以下のとおりYUSHINグループの5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。特定にあたってはステークホルダーの視点と当社グループ経営の視点でのマテリアリティ候補をリストアップしました。それらのマテリアリティ候補について経営会議および各本部から選出されたメンバーによる討議を行い、それぞれの重要度に応じてマッピングをすることで特に重要度の高いものを特定しました。

今後は特定されたマテリアリティへの対応方針を設定し、方針の実行を通じて、サステナブルな社会・環境の構築への寄与と企業価値向上に取り組んでまいります。

◆ YUSHINグループのマテリアリティ

事業を通じた社会課題の解決		
		    
マテリアリティ	重要性が高いと考える理由	取組み事例
労働安全性の強化	労働安全性は基本的な人権尊重につながるものであり、生産設備メーカーである当社にとっては特に重要な要素であるため。	<ul style="list-style-type: none"> 安全性能を高めた商品の開発 労働安全に関するスクール実施 自社の安全衛生委員会の継続的な取組み 人権方針の徹底と人権DDの実施
お客様工場の生産性向上	お客様工場の生産性向上によって、付加価値の高いモノが多くの人の手に届き、世界の人々の生活水準(医療、学習など)の向上が期待できるため。	<ul style="list-style-type: none"> 高速、高精度なロボットの開発、販売 生産性向上のための各機能の搭載 充実した保守、サービス体制
気候変動への対応	気候変動は世界中の多くの人々にとって生活環境が脅かされる大きな問題とされており、企業も世界を構成する一員として取り組むべきものであるため。	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ商品の開発、販売 自社事業所の使用電力を再生エネルギーへ切替え ガソリン車から環境配慮型自動車への切替え 自社拠点およびサプライチェーンの気候変動リスクの洗い出しとBCPの策定

YUSHINグループの持続的成長に向けた経営基盤の強化		
		  
マテリアリティ	重要性が高いと考える理由	取組み事例
人的資本の強化	付加価値を生み出す源泉は人であるため。	<ul style="list-style-type: none"> 人権方針の徹底と人権DDの実施 イノベーションが起こりやすい風土、環境づくり それぞれのライフステージに対応した継続的に働ける制度 効果的な研修 コーポレート・アイデンティティ(CI)の浸透
コーポレート・ガバナンスの強化	ステークホルダーからの信用がなければ事業運営が困難となるため。コンプライアンス違反に伴う罰則やブランド価値低下、セキュリティ不全によるデータ流出なども事業運営にとって脅威となるため。	<ul style="list-style-type: none"> 1/3以上の社外取締役 指名・報酬委員会設置(委員長は社外取締役が務める) 取締役会の実効性評価 内部通報制度 従業員へのコンプライアンス研修 データセキュリティの向上